# 野菜生産出荷近代化計画の概要（変更日　令和2年3月23日）

| | | ５年後の見込み | 産地の計画の概要 |
|---|---|---|---|
| 春キャベツ | 稲沢 | 作付面積 28ha→24ha<br>出　荷　量 929t→929t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>688t→688t | ○離農者の農地を集積し、認定農業者を中心に１戸あたりの規模拡大を推進する。<br>○セル成形苗を用いた半自動定植機や乗用管理機の導入、ワンタッチ段ボールによる出荷を推進し、定植や出荷に係る労力の低減を図る。<br>○緑肥の活用により、根こぶ病などの連作障害や天候不順による収量低下の改善を図る。<br>○４～５月上旬に収穫可能な品種の導入による作期の拡大を推進する。（地元量販店対応） |
| 冬キャベツ | 稲沢 | 作付面積 18ha→16ha<br>出　荷　量 357t→421t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>238t→281t | ○離農者の農地を集積し、認定農業者を中心に１戸あたりの規模拡大を推進する。<br>○セル成形苗を用いた半自動定植機や乗用管理機の導入、ワンタッチ段ボールによる出荷を推進し、定植や出荷に係る労力の低減を図る。<br>○緑肥の活用により、根こぶ病などの連作障害や天候不順による収量低下の改善を図る。<br>○１～３月上旬に収穫可能で春系で霜の強い品種の導入による作期の拡大を推進する。（地元量販店対応） |
| | 知多 | 作付面積 165ha→172ha<br>出　荷　量 5,810t→7,440t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>4,338t→4,603t | ○多様な担い手確保・育成とＪＡ出荷への誘導による共同出荷率を維持する。<br>○ＪＡ育苗センター等の活用による育苗作業を軽減する。（常滑市以南は（株）ＪＡファームちた苗生産センターを利用して苗を供給している。）<br>○定植機、ブームスプレイヤー及び収穫機等の導入により省力化する。<br>○加工・業務用向け契約取引の拡大による農家所得を安定化する。<br>○鉄コンテナ等大型容器を利用した加工・業務用向け出荷を省力化する。<br>○安心・安全なキャベツ生産を推進する。 |
| 冬春きゅうり | 西三河 | 作付面積 33t→29.4t<br>出　荷　量 8,222t→8,345t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>6,859t→6,968t | ○ＩＣｔを活用した環境制御技術の研究会を行い、部会全体の栽培技術の向上を図る。<br>○養液栽培の導入や炭酸ガスの施用により収量増加を目指す。<br>○後継者のいない高齢農家の離農に伴い空き施設が生じると予想されるため、継続使用が可能な施設については、規模拡大志向農家に斡旋する等の支援を行う。<br>○再生産価格での契約取引割合を増やし、経営の安定化を目指す。 |
| 春だいこん | 愛西 | 作付面積 46ha→46ha<br>出　荷　量 2,924t→2,621t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>2,120t→1,900t | ○雇用労働力の活用及び農地集積による経営規模の維持<br>○作型分散による年間を通じた労働時間を平準化する。<br>○一粒播種の導入による間引き作業の軽減、リモートセンシング技術の活用、作業受託を推進する。<br>○２出荷組織の統合による、新出荷体制の構築向けて検討する。 |
| たまねぎ | 知多 | 作付面積 240ha→159ha<br>出　荷　量 9,397t→5390t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>6,270t→4,000t | ○高齢化により作付面積が減少傾向だが、新規就農の促進や専作農家の規模拡大により産地の維持を図る。<br>○ＪＡ苗センター活用による育苗作業の軽減や、ＪＡによる収穫作業受託による省力化を進める。また、セル成型苗を利用する定植機及び収穫機の利用による省力化と規模拡大を推進する。<br>○通いコンテナの活用等による出荷調整作業の省力化及び契約取引の拡大を行う。<br>○極早生品種（ブランド名「たま坊」）の作期拡大により長期安定出荷を実現する。 |
| | 碧南西尾幡豆 | 作付面積 169ha→160ha<br>出　荷　量 11,900t→11,030t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>10,085t→9,348t | ○離農者の農地を集積し、認定農業者を中心に規模拡大を推進し、雇用を導入した経営を推進していく。<br>○「へきなんサラダたまねぎ」（３、４月出荷）のブランド強化及び消費拡大をいっそう推進していく。<br>○土壌消毒の徹底を推進し、黒腐菌核病の抑制を図り収量の増加につなげる。<br>○定植機、掘り取り機等の導入により収穫作業の省力化を図っていく。<br>○量販店の要望に応え、直送やコンテナ出荷を推進し、出荷作業の省力化を図って行く。<br>○加工・業務用の生産及び量販店等との契約取引を拡大していく。 |
| | 海部 | 作付面積 49.0ha→29.2ha<br>出　荷　量 5,605t→5,619t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>3,884t→3,894t | ○生食用出荷不適果のジュース等加工業務向け出荷、契約取引を拡大する。<br>○実需者等のニーズに合った品種及びトマト黄化葉巻病等の抵抗性品種の導入を検討する。<br>○炭酸ガス施用技術及び統合環境制御技術の導入、養液栽培の導入、高軒高ハウスの導入を推進する。<br>○外国人労働者の導入及びＪＡの無料職業紹介事業を推進する。<br>○選果機更新に伴うパート従業員の労力転嫁を行い、実需者要望アイテムの製造・供給を実施する。 |

| | | ５年後の見込み | 産地の計画の概要 |
|---|---|---|---|
| 冬春トマト | 豊橋 | 作付面積 120ha→ 117ha<br>出　荷　量 12,598t→12,573t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>11,666t→11,643t | ○高齢による離農者がある一方、後継者や担い手農家の規模拡大により産地の作付面積は維持する見込み。<br>○養液栽培システム推進により、収量や品質の向上、病害虫の回避を図る。<br>○高糖度やカラー系トマトなど、高付加価値生産を推進する。<br>○ミニトマトについて、パッキングセンターの利用により出荷調製作業の負担軽減や販売力のさらなる強化を図る。<br>○契約取引や直接販売による流通経費の削減及び有利販売を推進する。 |
| | 豊川宝飯 | 作付面積 60ha→59ha<br>出　荷　量 5,397t→5,402t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>4,280t→4,284t | ○定年帰農者を含む新規栽培者の確保や、若手農家を中心とした規模拡大を推進し、産地規模の維持を図っていく。<br>○大玉トマトは、集出荷場で集荷し選果機による自動選果などが既に実施されており、生産者の選果や箱詰め作業にかかる労力が軽減されている。<br>今後も、養液栽培の導入を促進し、収量の向上と省力化を図っていく。<br>○今後も、東三河地域のＪＡと連携し、関東市場へ重点的に販売する。<br>高糖度、良食味のブランドトマトを生産拡大し、トップブランドの確立を目指す。<br>○ミニトマトは産地間競争が激化しているため、高糖度品種の導入や出荷規格の見直しを検討する。 |
| | 渥美 | 作付面積 121ha→112ha<br>出　荷　量 11,446t→11,105t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>8,768t→8,506t | ○大玉トマトは、Ｈ２６に集出荷貯蔵施設の整備に伴い、選果と出荷を３箇所から一箇所へと集約。併せて、Ｈ２８に４部会から２部会へと統合。体制を統一し、産地ブランド化を一層推進していく。<br>○大玉トマトは、選果施設に生産者がコンテナで持込み、機械選果することにより、生産者の出荷労力軽減を図っている。<br>○ミニトマトは、Ｈ２９に４部会から１部会へと統合。作付面積はやや増しており、環境制御技術を活用し、収量の増加及び品質の向上を推進していく。<br>○ミニトマトは、農家ごとの機械選果の実施及び、３キロバラ詰め等の新規格導入による出荷調整作業の省力化を図っている。<br>○出荷容器について、ダンボールを中心に顧客要望・簡素化で通いコンテナも併用している。また、量販店の要望で店頭販売用のスタンドパックにも対応し、その他差別化商品についても出荷形態を変更して対応している。 |
| 冬春なす | 愛知西 | 作付面積 13ha→13ha<br>出　荷　量 1,466t→1,466t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>1,038t→1,038t | ○遊休栽培施設の情報窓口をＪＡに置き、担い手農家へ賃借を推進していく。<br>○単為結果性品種「ＰＣ千両」「とげなし輝楽」の導入を進め（現在94%）省力化を図っている。<br>○環境制御装置の導入を進め（現在７割）収量の向上を図っている。今後も更に導入を推進していく。<br>○「はつらつ農業塾」の取り組みにより、新規就農者が３名実現し、今後も生産者の育成を図っていく。<br>○リースコンテナを活用した契約取引を推進する。 |
| | 弥富 | 作付面積 6ha→6ha<br>出　荷　量 415t→435t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>281t→295t | ○単為結果性品種の導入及び苗の共同購入による栽培管理を省力化する。<br>○実需者等のニーズに合った品種及びトマト黄化葉巻病等の抵抗性品種の導入を検討する。<br>○契約取引向けのコンテナ出荷の導入による出荷経費を削減する。 |
| | 豊橋 | 作付面積 18ha→16ha<br>出　荷　量 2,219t→2,120t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>2,084t→1,972t | ○肥培管理及び温度管理等基本技術の徹底により収量の底上げを図る。<br>○優良品種の選定及び購入苗の利用等による栽培管理の省力化を図る。<br>育苗の省力化を図るため、産地の８割が購入苗を活用している。<br>○環境モニタリング装置等を活用し、炭酸ガス施用技術等の効果を実証し、技術確立を図る。 |
| 冬にんじん | 愛西 | 作付面積 25ha→25ha<br>出　荷　量 1,796t→1,946t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>1,200t→1,300t | ○規模拡大志向農家に対する農地の利用集積を推進する。<br>○シードテープの利用、リーモートセンシング技術の活用、適正な機械導入による省力化、経営規模の拡大を推進する。<br>○規模拡大農家に対する雇用労働力の活用を推進する。 |
| | 碧南西尾 | 作付面積 247ha→247ha<br>出　荷　量 9,495t→13,243t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>6,286t→8,645t | ○離農者の農地について、ＪＡの農地保有合理化事業を活用して認定農業者を中心に利用集積を推進していく。<br>○産地ブランド「へきなん美人」の作付を拡大し、ブランド強化や消費拡大を推進していく。<br>○在来品種「碧南鮮紅」の「あいちの伝統野菜」としての販売を強化する。<br>○契約取引による出荷を拡大し、経営の安定を図る。<br>○コーティング種子の活用・畝立て同時播種機の導入により播種・間引き作業の軽減を図る。 |

| | | ５年後の見込み | 産地の計画の概要 |
|---|---|---|---|
| 春はくさい | 愛知西 | 作付面積 18ha→16ha<br>出　荷　量 1,110t→1,042t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>853t→819t | ○離農者の農地を集積し、認定農業者を中心に１戸あたりの規模拡大を推進する。<br>○自家生産のセル成形苗を用いた定植機の導入を引き続き推進し、省力化を図る。<br>○緑肥の活用により、根こぶ病などの連作障害や天候不順による収量低下の改善を図る。<br>○高齢者で小規模な生産者を中心に、ＪＡの直売所への販売を促進し作付を維持する。<br>○地元量販店での契約出荷を推進し、経営の安定を図る。 |
| 秋冬はくさい | 愛知西 | 作付面積 35ha→24ha<br>出　荷　量 1,477t→1,141t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>1,233t→971t | ○離農者の農地を集積し、認定農業者を中心に１戸あたりの規模拡大を推進する。<br>○自家生産のセル成形苗を用いた定植機はほぼ導入済みで、省力化が図られている。<br>○雇用労力の活用を推進し、高齢化する生産者の労力負担の軽減を図る。<br>○「はつらつ農業塾」の取組により新規就農者が１名加入した。<br>○高齢者で小規模な生産者を中心に、ＪＡの直売所への販売を促進し作付を維持する。<br>○地元量販店での契約出荷を推進し、経営の安定を図る。 |
| | 江南 | 作付面積 16ha→16ha<br>出　荷　量 510t→730t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>310t→520t | ○離農者の農地を集積し、認定農業者を中心に１戸あたりの規模拡大を推進する。<br>○若手生産者にセル成型苗の更なる導入を推進しつつ、半自動型定植機の導入も進め省力化を図る。<br>○高齢者の出荷作業の省力化のため、ＪＡが生産者のほ場まで出向き出荷箱のトラックへの積み込みや出荷搬入の代行を実施する。<br>○緑肥作物の導入と有機ペレット等の緩効性肥料の施用により、施肥に要する労働時間の短縮を図る。 |
| | 三好豊田 | 作付面積 36ha → 36ha<br>出　荷　量 1,180t→1,640t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>788t→1,267t | ○規模拡大を志向する法人及び農家へ農地の利用集積を推進し、産地規模の維持を図る。<br>○優良早生品種の試験栽培を行い、年内出荷の割合を現状の７割から８割へ向上を目指す。<br>○豊田市では土質の関係で定植は手作業主体だが、省力化及び規模拡大のために定植機導入を検討する。 |
| | 豊橋 | 作付面積 159ha→127ha<br>出　荷　量 6,466t→4,445t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>3,944t→3,245t | ○消費需要の伸び悩み、生産者の高齢化により重量物であるはくさいの作付は減少傾向にある。<br>○簡易選別出荷やパレット出荷の推進、平箱出荷の検討・導入により、出荷調製作業の軽減を図る。<br>○ＪＡによる収穫作業受託の取組や豊橋市の援農事業を活用し、労力の軽減を図る。<br>○漬物業者向けの加工用の契約出荷を引き続き推進し、経営の安定を図る。 |
| | 豊川 | 作付面積 22ha→20ha<br>出　荷　量 1,063→957t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>709t→638t | ○消費需要の伸び悩み、生産者の高齢化により重量物であるはくさいの作付は減少傾向にある。<br>○高齢者の割合が増加する中、ＪＡによる収穫作業の受委託を推進し、収穫作業の軽減を図り産地の維持を図る。<br>○生産者が減少する中、キャベツ生産者に対し、はくさいの栽培について講習を定期的に行い、技術の伝承を推進する。<br>○市場経由の契約出荷に引き続き取り組み経営の安定を図る。 |
| ほうれんそう | 尾張西部 | 作付面積 82ha→62ha<br>出　荷　量 800t→726t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>425t→383t | ○遊休栽培施設や遊休農地の情報窓口をＪＡに置き、担い手農家の利用を推進していく。<br>○高発芽処理種子の利用を促進し生育ステージを整え、収穫期の品質にばらつきのない安定生産を推進する。<br>○緑肥の活用により、根こぶ病などの連作障害や天候不順による収量低下の改善を図る。<br>○出荷先と量目を調整し、コンテナ集荷などの取扱を増やし、出荷作業の簡素化を図る。 |
| レタス | 西知多 | 作付面積 16ha→16ha<br>出　荷　量 181t→170t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>171t→150t | ○所得率の高いたまねぎとの輪作体系を普及拡大する。<br>○セル成型苗に対応した全自動定植機の導入により省力化する。<br>○予冷庫の活用による高付加価値化を推進する。<br>○規模拡大及び新規栽培者の確保による出荷量の増大、共同出荷率を維持・向上させる。 |
| | 田原 | 作付面積 72ha→74ha<br>出　荷　量 1,135t→1,336t<br>うち、ＪＡ出荷量<br>708t→935t | ○非結球レタスを中心に規模拡大志向農家があるため、農地の利用集積を推進する。<br>○結球、非結球ともに、出荷規格の簡素化、ラッピングの省略等による出荷調整作業の省力化及びコストの低減を図る。<br>○量販店等との契約取引の拡大により、農家の経営安定を図る。 |